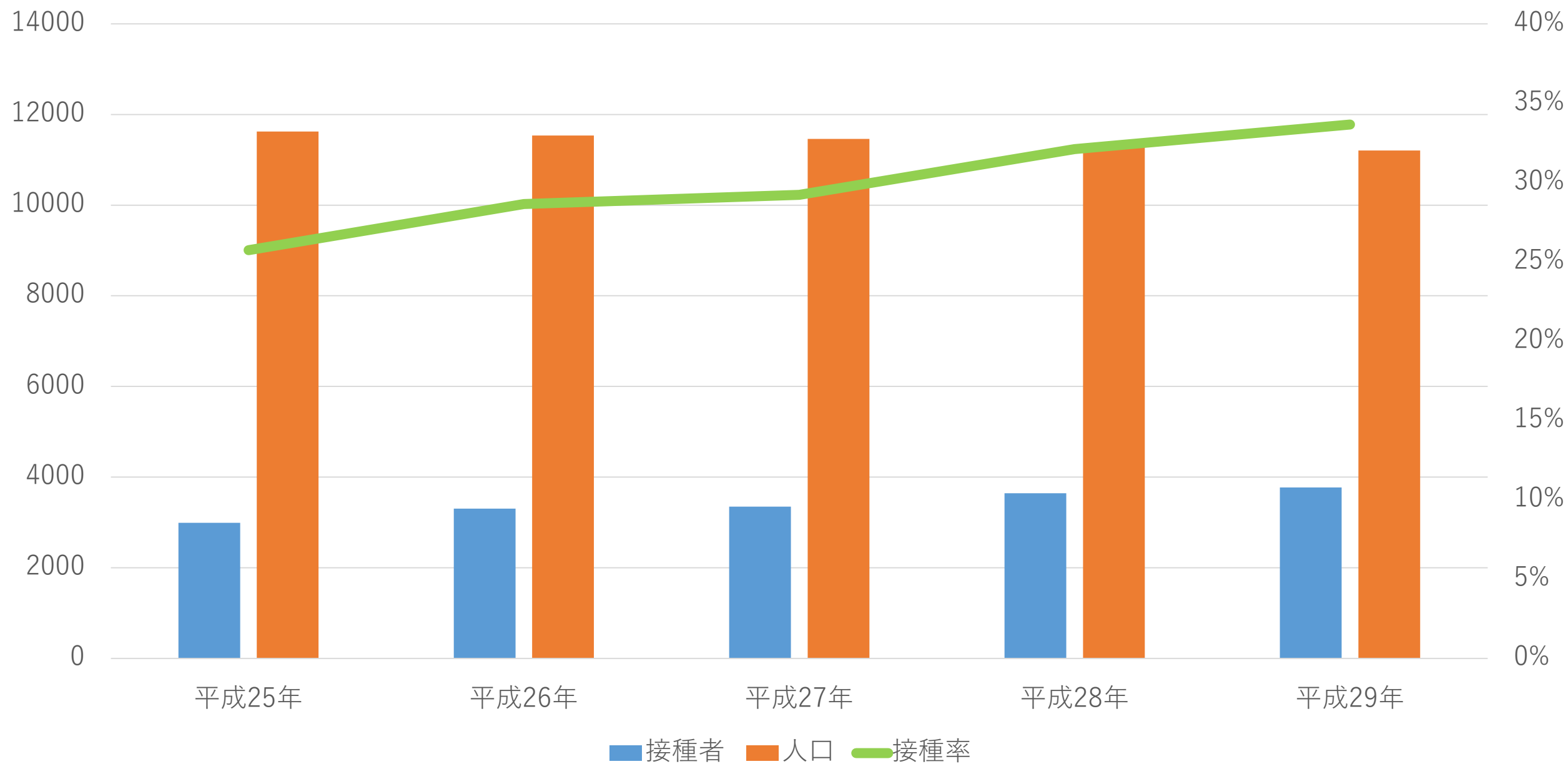
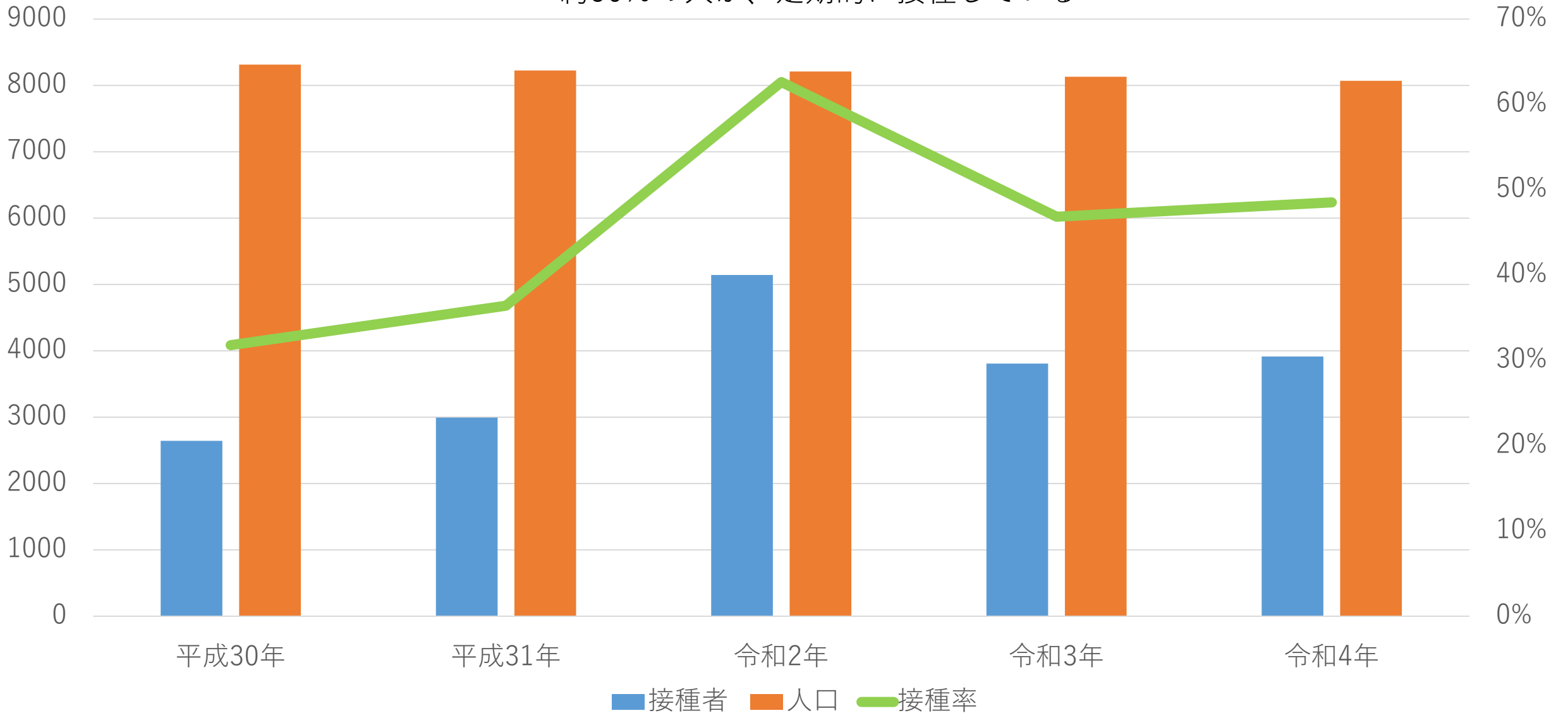


昭和22年生 インフルエンザワクチン接種率



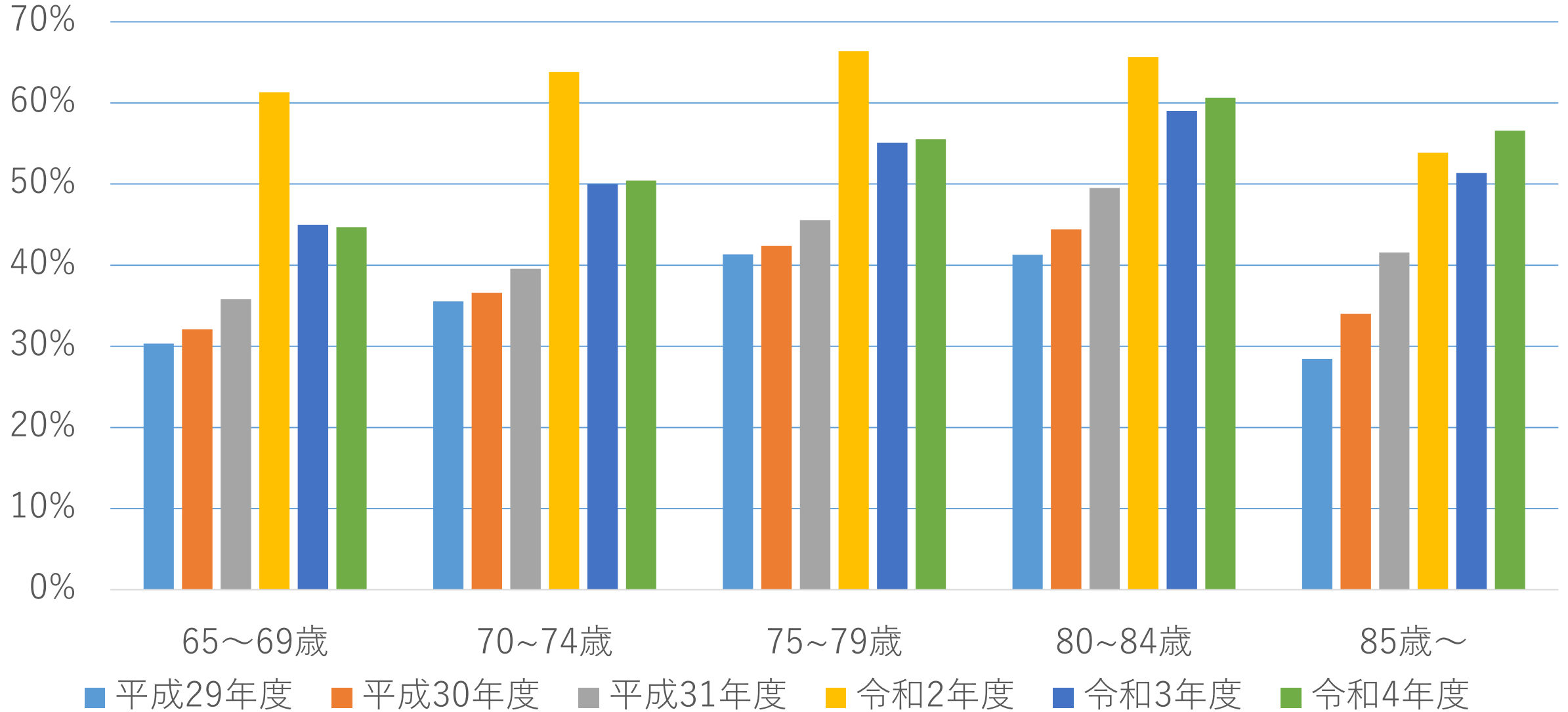
昭和27年生 インフルエンザワクチン接種率

令和2年はインフルエンザワクチン無料であったため、接種率高い
約50%の人が、定期的に接種している



年齢階級別 インフルエンザワクチン接種率

80代前半までは、年齢があがるごとに接種率が上昇している。



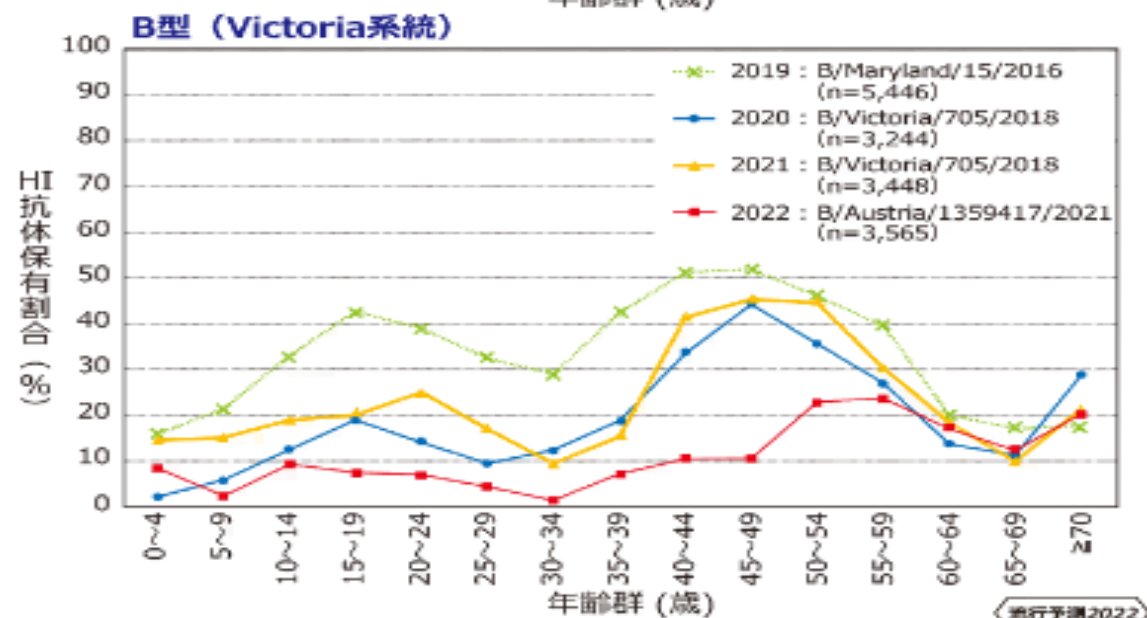
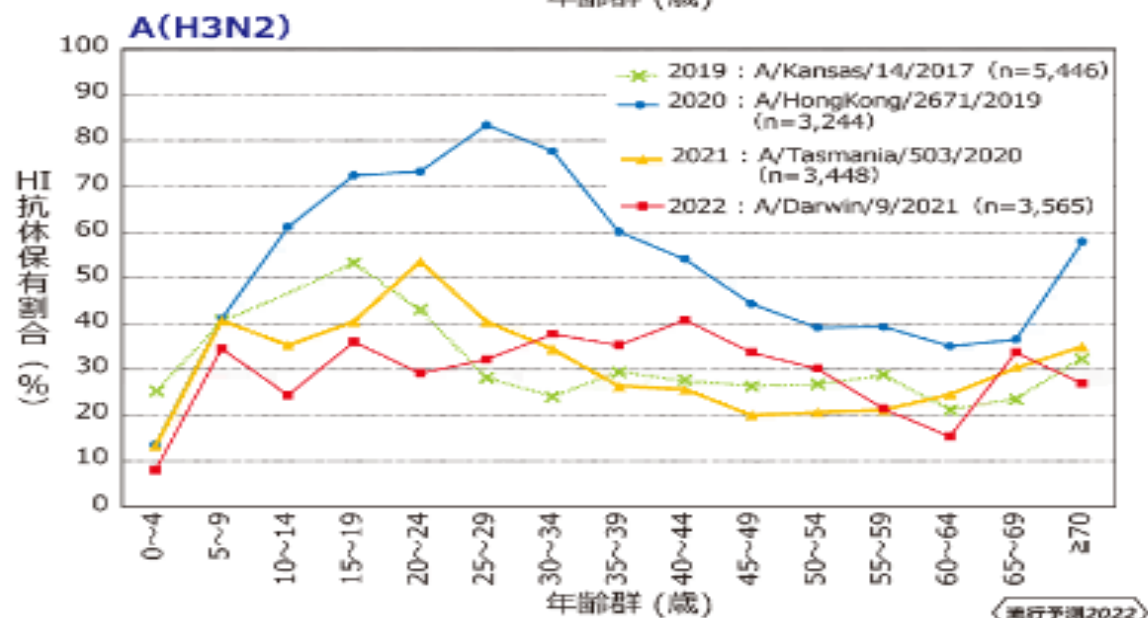
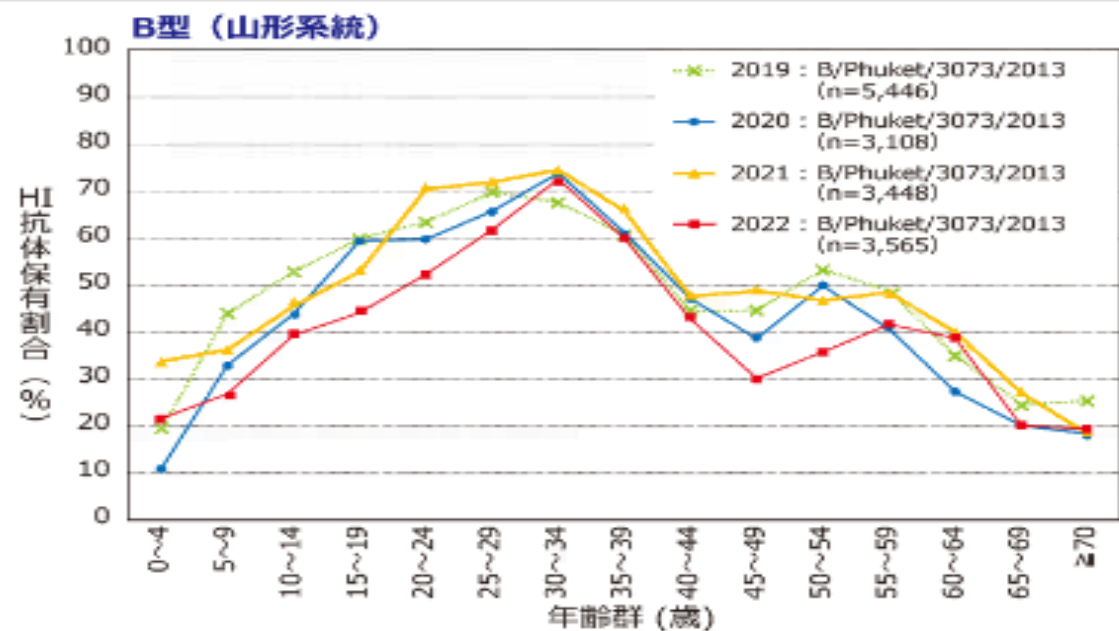
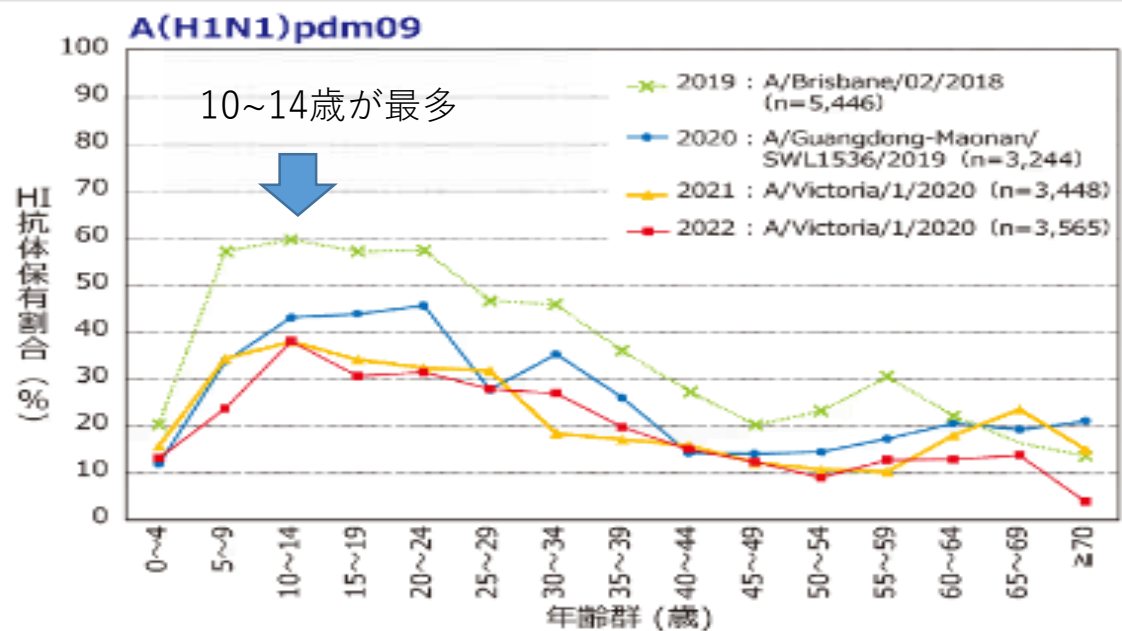


図2-1. A型インフルエンザウイルス

図2-2. B型インフルエンザウイルス

図2. 年齢群別インフルエンザウイルスHI抗体保有状況(抗体価 \geq 1:40)の比較, 2019~2022年度
 ~2022年度感染症流行予測調査より~

令和 5 年度インフルエンザワクチン用製造株とその推奨理由

株	推奨理由
A/H1N1 亜型	5a.2a.1 群に属する株が増えてきたこと、およびワクチン接種者血清の反応性が 5a.2a 群と 5a.2a.1 群に属するウイルスに対して低かったことから、WHO は、2023/24 シーズンの北半球用の A(H1N1)pdm09 ワクチン推奨株を、5a.2 群に属する A/Victoria/2570/2019 類似株から、5a.2a.1 群に属する A/Victoria/4897/2022 類似株 に変更した。
A/H3N2 亜型	国内の A/H3N2 亜型ワクチン製造用としては、令和 4 年度において高増殖株 A/Darwin/9/2021 (SAN-010)が使用されており、また本株以外に新たにワクチン候補株の性状解析は実施されていないことから、令和 5 年度の A(H3N2)亜型ウイルスのワクチン株として、令和 4 年度と同一株である A/Darwin/9/2021 (SAN-010) を推奨した。
B 型 (ビクトリア系統)	国内の B/ビクトリア系統ワクチン製造用としては、令和4 年度において高増殖株 B/Austria/1359417/2021 (BVR-26)が使用されており、また本株以外に新しくワクチン候補株の性状解析は実施されていないことから、令和 5 年度の B/ビクトリア系統ウイルスのワクチン株として、令和 4 年度と同一株である B/Austria/1359417/2021 (BVR-26) を推奨した。
B 型 (山形系統)	2022/23 シーズンにおいても山形系統ウイルスは、弱毒生ワクチン由来の株の検出であり、自然界における流行で解析された株はなかった（2020 年 3 月以降なし）。しかし、完全になくなったという確証がないため、WHO では引き続き山形系統のウイルスを 4 価ワクチン用のウイルス株として推奨した。わが国では、B/Phuket/3073/2013 はワクチン製造株としての製造実績もあることから、令和 5 年度の B/山形系統のワクチン株として、令和 4 年度と同一株である B/Phuket/3073/2013 を推奨した。

⇒左記株
で決定